

色彩学

BULLETIN OF THE COLOR SCIENCE ASSOCIATION OF JAPAN

VOLUME 4 NUMBER 1 2025



巻頭言 色彩と財務

財務理事 日高 杏子（芝浦工業大学）

「赤と黒」・「透明性」・「金・銀・ブロンズ」という色の要素から、日本色彩学会の財務を一考して、財務理事を担当した所感をお伝えします。

1. 赤と黒

「赤字」と「黒字」という会計用語は、誰しも耳にした経験があるのではないのでしょうか。いうまでもなく赤字は損失を、黒字は利益を示す日本語と中国語の会計用語。英語では「deficit(不足)」と「surplus(余剰)」に相当します。「赤と黒」の対比は、国際的に通用する会計表記として広く認識されていて、英語でも "in the red"(赤字)や "in the black"(黒字)という表現も一般的です。損失は赤インク、利益は黒インクで記帳される習慣が、日本や中国における会計用語の成り立ちに影響を与えてきました。色彩が言語や文化を超えて普遍的な意味を持つ好例であると言えるでしょう。赤は危険や警告、一方黒は安定や確実さを象徴する色として、人間の心理に深く刻まれていることから、記帳の色分けの伝統が生まれました。赤字続きでは、学会の正味財産を削ることになり、一方、黒字は経営の健全性を示す重要な指標です。

2. 透明性

次に、「透明性」という概念について考えてみましょう。研究において透明性が信頼の基礎であるように、財務の透明性も学会運営において欠かせない原則です。会員の皆さまからお預かりした会費や寄付金の使途を明示し、どこから見ても透明に管理・報告することは、財務、経理、監事の大切な責務です。

予算作成や意思決定の過程を明らかにすることで、会員の皆さまの理解と信頼を深めることができると考えます。

3. 金・銀・ブロンズ

また、日本色彩学会では、協賛企業のスポンサーシップにおいても色を用いていることをご存知でしょうか。「金」「銀」「ブロンズ」という色分けで貢献度を示し、感謝の意を視覚的に表現しています。ちなみに意外にも、近代オリンピックで金・銀・銅メダルを授与する制度が始まったのは20世紀に入ってからのことだそうです。今後もこれら輝かしい色のご支援を日本色彩学会へいただければありがたく存じます。

赤と黒、透明性、金・銀・銅のいずれも人類が根源的に重要視する色の要素一色が持つ力は、数字以上に直感的メッセージを伝えます。色彩研究に携わる日本色彩学会の会員にとって、このような色の社会的役割をあらためて考えることは非常に意義深いものです。

この巻頭言を執筆している2025年1月下旬現在、富田圭子理事と私で2025年度予算案を検討中です。2023年に私が理事になりたての頃、事務局で学会経理を支える望月淳子さまから貴重な指摘を受け、財務管理の認識を深めることができました。2023年度は、先輩財務の土居元紀理事（現在は総務）から多くを学び、2024年度からは富田理事に支えていただいています。永田泰弘先生のご提案とご厚意に基づき、寄付制度を設立できました。さらに堀内隆彦会長を始め、各委員長や主査、支部長の皆さまに財政状況をご理解いただき、参加費・謝金のガイドラインなどの協力を得てきました。

振り返ると、このような温かいご支援のおかげで、2023年度は黒字決算を迎えることができ、2024年度も黒字予算でスタートを切ることができました。安定した財政基盤の下、さらなる発展を遂げることを願ってやみません。カラフルな学会の未来へ変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。